2022年（令和4年）
第24号
（2月1日）

平安だより

HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

今月のことば　～お金を貯める。お金を使う-布施②～　右京支部 壮年部長　河村光朗

今月担当させて頂きます私は 1962 年寅年生まれ、今年で 60 才還暦になる右京支部壮年部長の河村光朗です。よろしくお願いいたします。

昨年末に母親がグループホームに入所することになりました。本人の了解が取れないままだったのでとても心配していましたが、やっとの思いで契約に取り付け送り出した日は１２月２８日。帰ってくることがないと思うとやはり悲しくて辛いです。

アルツハイマー型認知症の要介護の認定から 10 年近くデイサービスにお世話になり介護してきました。徘徊して行方がわからなくなり近所を探しに行くと通行人の連絡で警察に保護されていました。しかし不思議と毎回必ず見つかりました。なんでやねん！正直今度はどこ行くねん！ある時は警察署や交番からパトカーが来たりして迷惑をかけていました。相談にのって頂いたケアマネさん介護士の皆さんには本当に感謝するばかりでした。

そんな母親から学んだことは、親孝行をしっかりしなさいと教えられているようでした。そんな我がまま気ままな状態の母親の入所以来初めて面会に行くと無茶苦茶馴染んでいたのにびっくり。笑顔で私を迎えてくれました。今までの苦労が報われたようです。思えば母は教会でずっと食堂のお役をさせて頂いていました。人さまのためにお役に立ちたいと一生懸命頑張っていました。

会長先生の今月のご法話前段の「布施は慈悲心のあらわれ」のなかで「布施とは慈悲の実践そのものにほかならないのです。」と教えて頂いています。母は教会の食堂のお役を頂いていたおかげさまで身施の実践をしていたのだと気づかせて頂きました。

後段の「蓄財も仏行？」のなかで蓄財について「蓄えた財によって、人びとに福利をわかち与えることをめざす」とあります。母親には長生きしてもらいたいのでお互いのためにも別れての生活が良いと感じていますが、グループホームは毎月とても費用がかかります。しかしお互いのためには必要なことと気づかされました。コロナ禍の不況の中で給料も減りましたが、母のお世話をして頂くホームのみなさまのため、母が笑顔で生き生きと毎日を過ごすためにも必要な費用なのだと気づくことができました。これからは感謝の心でお金を使わせて頂きたいと思います。

会長先生は、「私たちにとって布施は大切な精進の一つといえます。」と教えて頂いています。

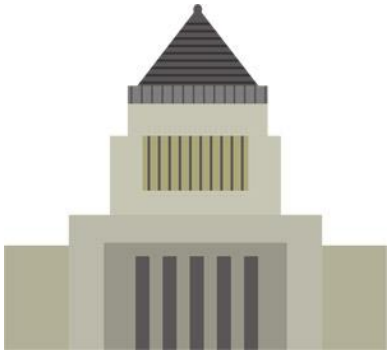
今年還暦という節目の年を迎え、心新たにし母親に倣って人さまのために修行精進してまいりたいと思います。因みに我が家は兄と二人に。無骨者の生活は酷いかもしれませんが、母親がいつ帰って来ても良いように小綺麗にしておきたいです。

ありがとうございました。　　合掌

開祖さまのご法話　政治と宗教　～人間の真の覚醒～

政治も宗教も、つまるところは明るく住みよい社会の建設、そして人類の平和をめざすためのもので、その点においては変わるところはありません。しかし、政治は、きのう、きょう、あすといった比較的さし迫った日限の中で、どちらかといえば力関係を中心にして動くものであるのに対して、宗教は、過去、現在、未来という長い時間の中で、個人の心の平和とともに理想の社会、平和な世界をめざします。政治は社会の不正を正すことで社会浄化をめざし、宗教は人びとの仏性（ぶっしょう）を磨きだすことで平和な世界を築くことをめざすものと言ってもいいかもしれません。

お釈迦さまが説かれた慈悲の教えを自分のものとして、それを、さらに多くの人びとに伝えていきたいという願いが菩薩行なのですが、「三千世界を知るも、なお自己を知らず」と言われるように、人は、まわりの欠陥はよく見えても、自分のこととなると何も見えていないものです。



政治も宗教も、まず自らを正して、それぞれの道で人間を真に覚醒させていくことを忘れてはなりません。

令和４年、私たちは「どこでも道場　祈り祈られ　笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/